

牧羊ひろば



東播磨中央教会

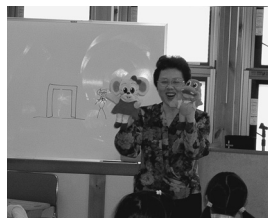
東播磨中央教会教会学校の紹介をいたします。

兵庫県に加古川市にある東播磨中央教会は田んぼの真ん中にあり、どこからでも十字架がよく見える教会です。教会前の道路は小、中学校の通学路になっており、必ず教会の前を通って子どもたちは学校に行きます。登下校時に庭にいる子どもたちが手を振り、日曜日に休んだ子どもたちに声をかけることができます。

朝8時45分、教会学校は教師の祈り会から始まります。聖書を開いて短いメッセージの後、祈りとその日の打ち合わせをします。教師は教会入口で子どもたちを迎えます。子どもたちは教会学校からプレゼントされたおそろいのカバンを持って、車や自転車や徒歩で元気にやってきます。カバンの中には、新約聖書と週報綴りと教会学校生徒手帳が入っています。

教会学校は、子どもたちが10名前後、CS教師はスタッフ、奉仕神学生を含めて5名、子どもと一緒に来られる大人が5名ほどで、礼拝人数は20名を超えます。

●礼拝と分級



お話

礼拝は9時から中学生も、子どもも保護者の方々もみんな一緒に礼拝をします。礼拝では、みんなの人気者チャッピーとカバくんの人形が登場して、子どもたちを聖書のお話に導きます。



お話

今年度のテキストは「私たちは神さまのもの」―はじめてのカテキズム―を使い、信仰の継承と育成のために聖書教理の学びをしています。お話は隔週に信子師、その間の週は教師が順番に入ります。教師それぞれが工夫をして、わかりやすく楽しく聖書を伝えていきます。

最後に頌栄、祝福があり30分に終了します。分級は10時まで、小学生、中学生、成人科に分かれます。



週報

小学生の分級は、今日のメッセージに関連した聖書クイズや工作、ゲームなどをします。週報やカテキズムカードを閉じ、みことばカードや出席シールを貼ったりして何かと忙しい分級ですが、最後は祈りの課題を出し合って、祈って終わります。中学生は、部活があつてなかなか来ることができません

が、聖書を開いて自分の教えられたことを語り合い、近況を報告し合い、祈りの課題を聞いてお祈りの時を持ちます。保護者の方は、成人科クラスが開かれているときはそちらで学びます。

●年間行事

*イースター

毎年、カラーセロファンで包んだイースターエッグですが、ひよこの人形を付けてプレゼントした年は子どもたちが大喜びでした。

*子ども大会

5月から6月にします。聖書のお話の他に映画やゲーム

などをします。自分で手品ができるように手品の講習会をした時は、たくさん子どもたちが参加しました。

*子どもの日・花の日

大人と合同礼拝です。礼拝前に、警察署と近くの交番所に感謝のお花を届けに行きます。今年は加古川警察署でパトカーや白バイに乗って、記念撮影をしていたきました。子どもたちは白バイにまたがって大興奮でした。

礼拝では一番前に座り、牧師から一人ずつ祝福のお祈りをしていただきます。今年は、子どもたちがチャイムトーンの演奏と讃美歌を歌いました。最後は教会からプレゼントがあります。

*サマースクール、

スプリングスクール

教会学校のメンバーと共に近隣の子どもたちが毎年、大勢参加します。多いときは45名の子どもたちの参加があります。サマースクールは、朝10時30分～夜8時まで。聖書のお話や賛美の時、先生たちの劇、工作、ゲーム、手品、外遊



サマースクール

び、夜のお楽しみ会と、プログラムは盛りだくさんです。工作は毎年時間をかけて頑張って作ります。この工作を夏休みの宿題で学校に提出する人も多いとのこと。夕食が終わると教会の庭でお楽しみ会です。ヨーヨー釣り、スパーボールすくい、コイン落とし、ゲームなど。スイカを食べて、ジュースを飲んで、最後はみんなで花火をして、楽しく一日を過ごします。

保護者の方も、工作や食事の準備を一緒にして下さり、迎えに来た保護者の方も花火と一緒にして、楽しい時を過ごします。毎年、ご近所の方々への良き証詞の時となっています。今年の参加者は、大人を合わせると50名以上になりました。

*クリスマス会

第一部は礼拝、二部はお楽しみ会、三部はお茶会とプレゼントの時となっています。降誕劇は隔年にします。婦人の方々が手作りしてくださった衣装を身に着け、練習不足にもかかわらず、本番は堂々と演じる子どもたちです。毎年、



CS クリスマス

教師だけがハラハラして見守っています。前年は「ふしぎな鐘」の劇をしました。プレゼントをもらって、最後は教師の手づくりケーキとお茶で、子どもたちの劇を見に来てくださった保護者の方々も一緒に、楽しい交わりの時を持ちます。

*卒業祝、年間表彰式、入学祝、進級式

一年間の努力に対して素敵なプレゼントを準備します。また、卒業や入学祝いのプレゼントもあります。この日は、みんな両手にいっぱいプレゼントを抱えてうれしそうに帰っていきます。

私たちの教会学校では、以前は信徒の子女がほとんどでした。地域の行事や、スポーツ少年団、クラブ、習い事などで、近隣の子供たちが来れません。また、サマースクールや子ども会には参加しても、なかなか毎週の教会学校にまでつながりません。でも、繰り返し伝道することによって、今では近隣から来る子どもたちも増えて、同比率になりました。今年も祈りつつ、信徒の子女の育成と共に、近隣の子どもたちへの伝道に励んでいきたいと願っています。

(藤森信子)

牧羊ひろば



浜松真愛教会

教会学校の礼拝から大人の礼拝への移行も自然に違和感なく出来ることにより、始めました。

●親子礼拝

礼拝は十時半から始まり、黙祷・招きの言葉・さんび・主

浜松真愛教会の教会学校は、二〇一〇年二月より親子礼拝という形で行っています。それまでは、九時四十分から朝の教会学校の礼拝が行われていましたが、未信者の家庭の子どもは来ていませんでした。教会員の子どもたち一く三名の出席でしたが、様々な事情により、その子どもたちも来ることが出来ないことがありました。教会の祈りの課題である信仰継承、家族伝道を祈る中で、二〇〇九年の『牧羊者』に、教師養成講座「神さまの子どもを育てるために」が掲載されました。子ども大人も一緒に礼拝をささげることが、何よりも聖書的事であること、教会全体で信仰継承の働きを担うべきこと、

の祈り・交読文・使徒信条と続きます。子ども用の週報も作成し、交読文は、新聖歌と子ども賛美歌から抜粋し、振り仮名を打っています。大人も同じものを使います。そして、使徒信条を告白した後、牧羊者から子ども向けのお話と賛美が十五分、フラッシュ・カードを用いて行われます。そして、大人向けの聖書が読まれ、メッセージがなされます。子どもたちは、大人向けのメッセージの間、だけ絵を描いたり、プロットをしたりして過ごしていますが、メッセージ終了後には、大人と一緒に礼拝をささげています。

●分級

昨年度までは、教会学校に来ていた子どもたちが皆幼稚園であったため、礼拝の始まる前に幼稚園のワークをしていましたが、小学科に一人が進級したため、礼拝後にも一く二年生用のワークをしています。この時に、お母さんも子どもと一緒に同じワークをしています。そのことによって親と子どもが共に、魂の養いのためのとても良い時を持つことが出来ています。

●親子礼拝を始めて良かったこと

親子礼拝を始める以前は、教会学校の礼拝が終った後の大



分級

人の礼拝の時に、子どもたちは遊んでいるのがあたりまえでした。しかし、今は大人も子どもたちの親の意識が変わって、子どもたちも一緒に神様を賛美し、祈りをささげ、礼拝することがとても大切なこととして、それがあたりまえとなりました。また、共に礼拝をささげている大人から見ても、子どもたちは、神様を礼拝する尊い一人の魂となりました。二歳の子どもは、字は読めなくても、周りの大人の真似をして賛美の本を広げて持ち、大人と同じように立って賛美しようとしています。また頌栄の時は、しっかりと口をあけて賛美しているようです。小学一年生の子どもは、主の祈りと使徒信条は、子ども週報を見ながら、言おうとしています。そのことが幼い時から積み重ねられていくことによって、みことが蓄えられ、神様の子どもが育てられていくでしょう。

子ども向けのお話は、ただ単に、子どもの魂の養いだけではなく、大人にも解りやすく、心に響くものもあります。大人の魂の養いや、求道者や初めて礼拝に来られる方々のためにも、親子礼拝を始めたことはとても良かったと思っています。

●行事など

教会で子どもたちが楽しみにしている行事の一つに、サマースクールがあります。これは、子どもクリスマスよりも楽しいかもしれません。八月下旬の火曜日の午後から教会に来て、



サマースクールでプール遊び

していました。花火が終ると記念写真を撮って、午後八時には家に帰ります。

暑くなつて夏が近づいてくると、「プールしたね。また、しようね。」とよく言っています。

今年は、八月の初めに、日帰りでしたが、東海子どもキャンプに、教会に来ている二人の子どもとその両親が初めて参加することが出来ました。二人とも他の教会のお友だちと仲



サマースクール参加者
良く遊び、小学一年生の子どもは、包丁を使って野菜を切ったりしてお手伝いをしてくれました。また、キャンプファイヤーなどで、二回も聖書のお話を聞くことが出来て感謝

しました。子どもたちが楽しく生き生きと過ごしているのを見ながら、来年の東海子どもキャンプには、日帰りではなく、一泊して最後まで参加できるように祈っていきたいです。

浜松真愛教会は、開拓十五年目の教会で、礼拝人数も少なく、十七帖のLDKが礼拝堂となり、他に子どもたちが礼拝中に過ごす部屋はなく、子どもたちもそこにいます。しかし、そのことでスムーズに親子礼拝が始められ、受け入れられていくことが出来たのではないかと神様に感謝しています。次世代の子どもたちにとつかりと信仰のバトンを渡していくことを祈りながら、これからも、この奉仕をさせて頂きます。「努めてこれをあなたの子らに教え、・・・これについて語らなければならない」（申命記6・7）。（今田雅子）

「おわりに」

今回も『牧羊者』二〇一一年度第IV巻をお届けできまことを感謝します。執筆者の方々には、貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回は、特集として、5月26日〜30日に開催された韓国金山市にある水宮路教会での研修の中から、教会学校に関し、て参加された先生方に証を書いていただきました。また、「牧羊ひろば」では、東播磨中央教会と浜松真愛教会の教会学校を紹介していただきました。今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解	福井文彦師	高橋頼男師	金井信生師
研究資料	山田和幸師		
メッセージ例	宮澤清志師	中島啓一師	小平德行師
	飯田勝彦師	和田治師	水野晶子師
ワーク	松浦みち子師		
(A)	吉田美徳師	鎌野幸師	
(B)	野勢かほる師	竹崎光則師	
(C)	上代美雪師	小菅央子師	
(D)	石田恭子師	田中裕明師	
中高科へのヒント	小野淳子師	後藤健一師	
子ども聖書日課	丹羽遥姉	土屋直子師	
フラッシュカード	丹羽遥姉		
イラスト	楠淳子師	長尾明美師	
ワーク打ち込み	長田栄一師	加藤清師	山田和幸師
校正	長尾秀紀師	長尾明美師	

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共榮印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。（長尾秀紀）

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一一年度 IV 巻

二〇一二年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団
企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局
神戸市兵庫区塚本通三―三―一九

電話〇七〇―五七五―五五一二
FAX〇七〇―五七五―六六一一

印刷所 菱三印刷株式会社
電話〇七〇―五七六―三九六一

* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み